

のにためらっている人には、『まずは、やって
ごらんなさい』って言うわね。」



「笑顔で楽しく」がモットー

■笑顔の裏に隠してきた苦勞

順調な人生を歩む中に、苦勞はなかった
のだろうか？

「苦勞はたくさんあるわ。夫が病気になっ
たときは、想像を絶する試練だったわ。会
社を経営していたので、残務処理が大
変だった。全然わからない経理まで私が、
必死で頑張ったのよ。ひとつの経験になっ
たわね。」

お花の世界って煌びやかに見えても、実
は冷たい水に触ったり、重いものを持った
りと、かなりの重労働。腰部脊柱管狭窄症
で10年ほど苦しんだなあ。いろんな病院
に行って治療代もたくさん使ったのに治
らなくて、知人から『根本的な治療をして
ないじゃない』って言われて気づいたの。50

代に入ってすぐに手術を受けました。それ
までは裏で泣いて、誰かに見つかったこと
もあつたっけ(笑)。」

■「一期一会」だからこそ

そんな頃、横田さんの中に大きな変化が
あつたという。

「夫や自分の病気を乗り越えてくる中で、
わかつたことがあるの。私はやっぱり、暮ら
しを楽しむお花が好きなのだ。そう思っ
たら、教室も芦屋から西宮北口へ、自然な
流れでシフト出来たわ。」

今は『一期一会』を大切に、丁寧に生活
することに充実を感じています。人との出
会いも、今日の花材との出会いも『一期一
会』。一日を振り返ったとき、今日もよかつ
たなあと思えるように、頑張らなければ
ならない日は、頑張れるように自分を持っ
て行くの。お花の他に、お茶とお習字も
するわよ。お茶とお花は切っても切れない
関係でしょ。お習字も、サボるとすぐ字に
出ちゃうのよね(笑)。」

■花はライフワーク

「忙しい毎日の中で、お花をみるとホッと
するのよね。生徒の皆さんにも、お花を通
して毎日の暮らしを楽しんでほしい。その



窓辺のかごには、優しい色のブークが

お手伝いが、私のライフワーク。何かに挑
戦したい方の道しるべでありたいの。そし
てお花をいける皆さんと一緒に輝いてい
けたら最高ですね。

(文・福田直子、写真・野住智恵子)

●横田則子 未生流いけ花正師範。オラ
ンダ国家資格である農水省国立の、ダッチ
ディプロマと『ウィムハゼラー』マスターコース
の『ダッチフラワーアレンジメント』ディプロ
マ取得。IA日本アロマテラピー協会インスト
ラクター、ほかテーブルコーディネートにも
携わる。阪神間沿線で花全般の指導。2013
年、西宮市にフラワーショップ「花遊房のの
かNishinomiya」をオープン、暮らしを楽しむ
お花の提唱と指導に従事。高松市生まれ。
好きな花は紫陽花。



「花遊房ののか」Nishinomiya

西宮市南畑和野8-8

TEL&FAX 0798-67-8717

お問い合わせ 090-9627-6660

http://www.nishinomiya-yo.com